



玄関は2階までの大きな吹抜けになっていて、ダイナミックな小屋根を目の当たりにできる。曲がりくねった柱の木で組んだ梁に当時の職人達の技術の高さが感じられる。

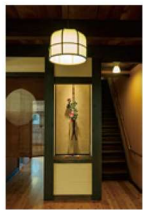


2階では目の前に横たわる梁の存在感に圧倒される。寢室はアジアテイストに、和紙を通して入る日差しはやわらかで心地よく、気持ちが変わる。



南向きの庭を望む松の無垢板の広縁は、築90年の古民家の名残。窓をペアガラスに交換したので、冬の広縁はサンルームのようにホカホカ。

季節を感じさせるあしらいや、照明器具の選び方など、和の暮らしを演出するアイデアも参考になる。



2階のフリースペースには琉球産を敷いて古道具やアンティークな照明器具をディスプレイ。音の暮らしが感じられる空間。



Company Profile

株式会社 ハウスランド社

福岡県筑紫野市大字吉木344-1
TEL 092-922-8771
http://www.h-land.jp

●詳しい情報はP183に掲載

ようだ。窓はアルミと樹脂のハイブリッドのペアガラスが標準。外気の影響を受けにくい家は、おのずと冷暖房効率も高まる。これぞ昔ながらの暮らしのエッセンスと現代の施工技術を融合してつくる現代風古民家の真骨頂。「今どきの家は効率や性能を強調しすぎではないでしょうか。私たちが大切にしたいのは、数値よりも、無垢の木の香りがするとか、炭の弾ける音や炎や煙が上がる様子が感じられるといった、五感に訴えてくるもの。いまではすっかり非日常になってしまいましたが、かつては日常だった風変わりや営みを暮らしの中で感じられる提案をしたのです。きっと、住まいに感銘的なものを求める人も少なくないはず。決して効率ばかりはいかめませんが、できるだけ自然素材を使って、職人の手仕事を活かしてつくるのが私たちのやり方。100年後に古民家になるような家をこれからもつくり続けるつもりです。

現代の施工技術を融合させて100年後も生きる家をつくる

自然素材はやわらかな風合いや肌触りが魅力。昔ながらの和の暮らしをイメージさせ、視覚的に温もりを感じさせられるだけでなく、冬の暮らしにふさわしい特性も兼ね備えている。「無垢の木は日差しや温風で温まるんです。しかも、木の細胞に熱をため込むため、一度温まるとすぐには冷めません。ですから、当社では床の標準仕様を厚さ30ミリの九州産の杉の無垢材にしています。壁はスベイン塗装がおすすめ。

すめ。自然素材は調湿効果にもすぐれ、冬の極度な乾燥を防いでくれます」と三上さんは説明する。その特性を活かすために同社がこだわっているのが断熱。高性能の健康断熱材が標準仕様で、屋根には赤外線を反射するアルミ遮熱シートも併用するという念の入れ



一間半の床の間のある10帖の和室は、落ち着いた雰囲気。古風なデザインの建具は空間に合わせて職人が1つずつ手回ひまをかけてつくりあげたもの。

